

**令和6年度
学校評価書(中間期)**

愛南町立御荘中学校



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その1

令和6年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合							
												0	50	90					
I よりよく生きる力を育む指導の充実	①	いじめ・不登校防止	いじめ・不登校の防止や解消に向け、早期発見・早期解決できる集団づくりが実践されている。	中間期 A	◇回答の肯定率が生徒は9割、教職員が10割と目標値に達しているため、評定をAとした。生徒の肯定率は、昨年度の中間期と比較して若干向上しているが、1の評価があることを真摯に受け止め、生徒の変容に気づける組織づくりを進めていく必要がある。生徒指導部会を核として情報共有を行い、全教職員で組織的な対応を具体的に行っていくよう心掛けていきたい。	生徒2-4	102	38	0	2	99								
			【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定	◆、問題に対して、素早い対応・情報共有を行うようにすると共に、未然防止に努める。また、「学校生活アンケート」や「心と体の健康チェック」による実態把握や生徒の変容に気付ける組織づくりを行う。不登校傾向の生徒の対応については、学年部だけでなく、養護教諭やSC、SSW、また外部の関係機関と連携した対応ができるように情報共有を行いながら体制を整える。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート ・教育相談による情報														
	②	楽しい学校生活	教師と生徒、生徒同士が「違いを認め合う」人間関係を構築し、楽しく学校生活を送っている。	中間期 A	◇回答の肯定率が生徒・保護者は9割を超え、教職員は10割だったため、評定をAとした。例年、年度初めは新しい集団になり、落ち着かない生徒も見られるが、学校生活を通して、集団としてのまとまりが見られるようになり、集団が成長している。それに比例して、気持ちのよい挨拶が増えてきているように感じる。気持ちのよい挨拶が一つの指標になると考える。	生徒1-1	96	43	4	0	97								
【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定			◆2学期は、体育祭からスタートする。暑い中での練習で大変な部分はあると思うが、充実感や達成感を生徒が感じられるように全教職員で配慮していく。また、集団への所属感や自己有用感を味わえるよう適宜声を掛けていきたい。さらに学年部等横のつながりだけでなく、縦のつながりを体感させ、その中で、生徒相互、生徒と教師の人間関係・信頼関係を構築していく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート															
③	生徒の主体性を生かす活動	生徒の主体性を生かした、生徒会活動や学校行事が実践されている。	中間期 A	◇回答の肯定率が生徒・保護者・教職員の9割を超えていたため、評定をAとした。生徒総会をはじめ、主体的に生徒会活動や学校行事に取り組んでいると感じているからであろう。学校生活を自分たちが作っているということや所属感を感じさせるために、必要に応じて声を掛けていく必要がある。是是非非について生徒間で声を掛け合える集団づくりを進めていきたい。	生徒1-12	78	60	5	0	97									
		【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	◆様々な学校行事や活動において、生徒会役員を中心に生徒主体の動きを意識させていく。また、また、その取組についての評価を行い、次への意欲、課題を持たせていきたい。2学期は学校行事が多く、3年生を中心としたリーダーの育成に努めると共に、2年生についても次のリーダーである意識を持たせられるよう適宜声を掛けていきたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・各行事後のアンケート															

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇生徒アンケートにおける1をつけた2名について、いろいろな方法で悩みや不安を聞き取る等して丁寧支援してほしい。(I・①・生徒)

◆生活アンケートや教育相談を通して実態把握に努め、2名の問題を解消するための対策を実践していく。

◇ほとんどの生徒が楽しく学校生活を送れているようであるが、数名は楽しくないと感じている生徒がおり、実際に学校に来ることができていない生徒も数人いると聞く。不登校の生徒が増えないように取り組んでほしい。

◆生徒指導上の諸問題の早期把握と早期解決に努めていく。また、現在不登校の状態にある生徒については、多様な学習環境の整備に努めていく。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その2

令和6年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合							
												0	50	90					
II 確かな学力の定着と向上	④	主体的・対話的 深い・学対話的	主体的・対話的で深い学びを目指した、ねらいを明確にした分かる授業を実践している。	中間期 A	◇生徒・教職員共に9割以上が肯定的な回答であった。各教科で、授業のねらいを達成するために、課題設定の仕方を工夫して共に学び合う場を設定してきた。授業の中に、話し合ったり練り合ったりする活動を導入することを心掛けてきた。生徒たちも友達の意見を聞くことで考えを深め、共に学ぶという意識が少しずつ育ってきている様子が見られた。	生徒2-1	70	67	5	1	96								
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	◆今後も生徒が学び合い、考えを練り合って表現力を高めていけるような授業を教師が意識して実践する。話し合い活動を深める素地となる表現力、語彙力を向上させていくために、eスタタイムによる新聞記事の読解や、EILS読書通帳の活用による読書活動の推進を今後も継続させていく。	保護者2-5	20	43	8	0	89									
	教職員2-1	7	8	0	0	100													
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・研究授業や各種研修への取組													
II 確かな学力の定着と向上	⑤	主体的な研修・自己研鑽	ICT活用を充実させ、授業内容と家庭学習を関連付け、個別最適な学習指導に努め、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	中間期 A	◇授業においてクロームブックなどのICT機器の活用は定着し、情報活用能力の更なる向上に取り組んでいる。今年度はドリルパークの有効活用に取り組み、個々の生徒の学習状況を把握するとともに、コメントを送付することで生徒の意欲付けを図っている。クロームブックを活用する機会が増えたことも、生徒のICTを活用した授業はわかりやすいと感じている結果につながっていると考える。	生徒2-3	59	74	9	1	93								
			【目標値】 教職員の8割以上が肯定	◆今年度はEILS-PBTの試験導入により、テスト処理のICT化についても取組を進めている。今年度はこの取組を継続し、個々の生徒の学力の分析・弱点補強に有効活用できるように更に研修に努める。生徒に対しては、情報の収集や判断、処理、発信などの情報活用能力の育成の中で、情報モラルについての学習を継続して行っていくため、教職員が情報モラル教育に関する教材研究を積んでいく。	教職員1-2	7	10	0	0	100									
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・研究授業や各種研修への取組 ・各教科での基礎的・基本的な事項を図る取組													
II 確かな学力の定着と向上	⑥	家庭学習習慣	主体的な家庭学習の習慣が身に付いている。	中間期 B	◇肯定率が生徒、保護者共に75%であるため、B評価である。1学期の期末テストの取組に関するアンケートでは、90%以上の生徒が目的を持って学習に取り組んだと回答している。しかし、学習時間が不足している生徒が多いという結果であった。宿題は概ねできるが、工夫して自主的に学習に取り組むには至っていない生徒が多いと言える。	生徒1-2	47	60	30	6	75								
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	◆生徒の取組の中で、自主性の部分の強化が必要なのか、学習の工夫の部分の強化が必要なのかを見極め、個別指導を行うことで目的意識を持って学習に取り組むことを生徒に意識させていく。4月から取組を始めた「週末ドリパ」を含めたドリルパークの有効活用を浸透させ、生徒の主体性を高めていきたい。学習内容の量や質について確認しながら、一人一人の取組を考察することが必要である。	保護者1-3	20	33	11	7	75									
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・家庭学習時間調査 ・自主学習ノートの取組													

【学校運営協議会における意見・提案等】

- ◇学力については、家庭での規則正しい生活習慣(スマホ等の使用も含めて)も大切である。保護者と連携しながら取り組んでほしい。
- ◆これからの多様化・複雑化した社会を生き抜いていくために、家庭での学習習慣を身に付けさせることが大切であるということを保護者に積極的に啓発していくとともに、普段の授業を通して子どもたちの「主体的に学びに向かう力」を向上させるように努める。
- ◇生徒自身の学習意欲をどのように伸ばすのかということが大切なのではないだろうか。
- ◆生徒の学習意欲を高めるためには、学習の必要性を感じさせる必要がある。そのためにキャリア教育を充実させ、自分の将来について考えることができる生徒を育てていく。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

令和6年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合					
												0	50	90			
Ⅲ 心の教育の推進	⑦	中学生らしいよい挨拶	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、自分の意志で行動できる生徒が育っている。	中間期 A	◇生徒・教職員、地域の肯定率が9割を超えており、目標値に達しているため、A評定とした。ただし、生徒の4の回答率が高いのに対して、教職員、保護者、地域は3の回答率が最も高く、「気持ちのよい挨拶」等の捉え方には違いがある。地域や家庭で生かされる挨拶を実践しなければならない。	生徒1-7	87	54	2	0	99						
			【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定	◆生徒会執行部による挨拶運動等がややマンネリ化しているように感じる。生徒会執行部と共に新たなアイデアや活動を考えていきたい。更に、2学期から本格的に始まるブロック活動や部活動、全校集会等の様々な場において、挨拶の意義や中学生らしい言動について、考え実践できるようにしていく。	保護者1-2	32	36	3	0	96							
	【自己評価アンケート以外の評価材料】 ・生徒の日常の様子 ・生徒の挨拶運動の状況	教職員3-3	6	10	1	0	94										
						地域1-1	9	31	4	0	91						
	⑧	人権尊重・心の通い合い	価値観の違いを認め合い、互いの人権を尊重した学校づくりがなされている。	中間期 A	◇生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えており、A評定とした。生徒は校外で行われた人権委員座談会やハンセン病施設視察研修に意欲的に参加し研修を深めた。また、継続的に行っている人権委員会によるいじめ対策委員会や毎月の学校生活アンケートの実施などにより、人権意識の向上につながっていると考える。	生徒1-11	69	65	8	1	94						
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定		◆いじめや差別のない学校生活を実現するために、人権学習の充実や学校行事等を通して望ましい人間関係づくりを大切にしていく必要がある。2学期の学校行事や行事後の「ありがとうメッセージ」の実施や、「あったかほっこりエピソード」の募集を通して、他者への思いやりの気持ちを持って行動できる生徒の育成を目指す。	保護者2-7	29	37	4	1	93						
												〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の状況 ・学校生活アンケートの結果 ・いじめ対策委員会を通じての情報					
	⑨	道徳教育の充実	対話を重視した道徳科の授業を通して、人間としての生き方についての考えを深めるとともに、道徳的な態度や実践意欲が育てられている。	中間期 A	◇生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えており、A評定とした。令和5年度に比べて、4の項目が多くなっている。しかし中には、満足していないと考えている生徒もいる。	生徒2-6	95	41	3	2	96						
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定		◆道徳科の授業で、問題解決的な学習や思考ツールを活用する多様な方法を取り入れた指導を充実させてきた成果が出ていると考えられる。そのために今年度は計画的な道徳科の学習を全教職員で取り組んでおり、学期ごとに進行状況を確認し、見直しを行っている。今後も自分との関わりを通して考え、多面的・多角的な見方や考え方を共有しながら、多様性社会を生きる上で必要な資質や能力を育成するために、考え議論する道徳科の授業を進めていく必要がある。	教職員6-1	5	9	2	0	88						
												〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の言動や変容					

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇挨拶に関しては、大きな声で朝から気持ちのよい挨拶をしてくれている。登下校ともに元気な生徒が多いと感じる。人権教育については、自分とは違う価値観を認めるようになる過程では、多少の軋轢はあっても仕方ないと思う。ただ、見守りをを行い間違った方向へ行かないように導いてあげてほしい。また、他者に優しくなれるためには、自分自身に余裕がないと難しい。心の余裕を持って学校生活を送ってほしい。

◆生徒会役員を中心に、大きな声であいさつをすることができている。学校内においては、すれ違う際に「こんにちは」と気持ちのよい挨拶習慣が身に付いている。これからは多様化の時代である。そのためにも多様性を受け入れることができる生徒を育てられるよう尽力する。生徒も教員も仲間を信頼し合い、寛容さを大切にし、温かい学校社会を築いていく。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その4

令和6年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合							
												0	50	90					
IV 健やかな体の育成と安全教育・防災教育の推進	⑩	体力の向上	授業や部活動を通して、運動の習慣化と体力向上が図られている。	中間期 A	◇生徒・保護者、教職員の8割以上が肯定しているため、評価をAとした。保健体育科の授業において、基礎体力づくりとしてランニングや補強運動を継続して行っていることが体力向上の一つの要因として考えられる。新体力テストの総合評価において、2、3年生はAB判定の割合が5割を超えているが、1年生は4割に届いていない。1年生、特に男子の体力向上が課題である。	生徒1-6	86	39	15	3	87								
			【目標値】 教職員・生徒・保護者の8割以上が肯定	◆新体力テストの総合評価では、男女ともに筋力、柔軟性、巧緻性に課題がある。今後は、授業における取組の見直しを全学年で行っていく。また、夏休みは、部活動が主な活動になるので、部活動での実践をより効果的なものにしていくことで、本校の体力アップ推進計画の指標をクリアしていく。2学期に行われる体育祭にも主体的に取り組ませ、体力の向上を図っていく。	保護者2-8	38	30	3	0	96									
	教職員7-1	11	5	0	0	100													
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・新体力テストの結果													
⑪	安全・安心な学校づくり	持続可能な防災教育の充実を図り、生徒自ら安全確保のために主体的に行動する態度を育成している。	中間期 A	◇生徒、教職員ともに肯定率が9割以上であるため、A評価とした。自他の生命を守ろうとする意識を高く持っていることが考えられる。交通安全教室、予告なしの避難訓練、各学年における防災学習、地域との連携等を積み重ねてきた結果だと考えられる。	生徒2-7	100	39	3	0	98									
		【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定	◆今後も、様々な場面を想定した避難訓練や防災学習を実施し、生徒が主体的に安全確保のために行動する態度を育てる。訓練や学習がマンネリ化しないよう、生徒が危機感を持って考え、取り組めるような工夫が必要である。また、交通安全や防犯に対する意識の向上を図り、安全教育が幅広く確実なものとなるよう、指導を継続していく。	教職員7-2	6	10	1	0	94										
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・毎月の避難訓練の様子 ・防災学習													
⑫	基本的な生活習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が定着している。	中間期 A	◇朝食欠食、ネット端末利用による就寝時刻12時以降の生徒もいるが、全体の8割の生徒が意識して生活できている。今後も高い意識が持続できるように支援したい。	生徒1-9	58	67	14	4	87									
		【目標値】 生徒の8割以上が肯定	◆生徒の中には、生活習慣が乱れていると思われる生徒もいる。少しでも改善できるように日々の健康観察結果や心と体の健康チェックでの個別指導、生徒保健委員会からの呼びかけ、集会の実施など、指導を継続していく。																
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・健康観察(毎日) ・心と体の健康チェックの結果(月1回)													

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇校内での防災学習には参加していると思うが、地域の防災学習となると参加がほぼない。自然災害はいつ起こるか分からないので、地域と連携した防災学習についても実践していく必要があるのではないかと。

◆今年度は、12月1日(日)に愛南町総合防災訓練が実施される予定である。4月17日には大きな地震が発生しており、南海トラフ大地震等による大規模災害に備え、地域や防災関係機関との連携を密にし、防災学習・防災訓練を充実させていく。



愛南町立御庄中学校 学校評価公開シート その5

令和6年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合							
												0	50	90					
V 家庭や地域とともにある学校づくり	⑬	地域とつながる教育	「人」や「仕事」など、地域とのつながりを生かした教育活動に工夫して取り組んでいる。	中間期 A	◇教職員、保護者・地域の9割以上が肯定的回答であるため、評定をAとした。1学期には、地域コーディネーターを中心に、町内の事業所と連携を図りながら、3年生の職場体験学習を実施することができた。生徒や各事業所のアンケート結果からも、地域とのつながりの大切さを実感できる活動となった。	教職員4-2	8	8	1	0	94								
			【目標値】 教職員・地域の8割以上が肯定	◆職場体験学習では、終業時刻の早い職場や体験日の少ない事業所があるため、事業所の選定や新規受け入れ事業所の開発が必要である。また、2学期に予定している「造形の日」の活動では、講師と密に連携を取ることで、より効果的な教育活動の実施を目指す。	地域2-2	12	26	2	0	95									
⑭	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実が図られ、関係機関との連携を図った教育的ニーズ対応した教育が実践されている。	中間期 A	◇保護者、教職員の肯定率が8割を超えており、A評価とした。教職員、支援員が連携をし、特別支援学級の生徒を中心に、きめ細やかに対応し、安心して成長できる環境づくりに努めた。通常の学級に在籍する生徒についても、実態把握を行うことができた。	保護者2-7	29	37	4	1	93									
		【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定	◆配慮が必要な生徒に対しての共通理解を図り、適宜、個別の指導計画を作成するなど個に応じた適切な支援について検討し、実践していく。	教職員5-1	9	6	1	0	94										
⑮	学校開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、学校運営協議会の協力の下、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	中間期 A	◇保護者・地域の9割以上が肯定的回答であるため、評定をAとした。学校・学年、各担当者から各種「たより」が定期的に発行されていることや、HPの更新が毎日行われていること、クロームブックによる全校生徒への連絡・調査・アンケート等で双方向のコミュニケーションが取れていることなどが、保護者の肯定的回答に表れている。	保護者2-9	34	36	1	0	99									
		【目標値】 ホームページ、各種たよりの保護者の閲覧率が8割以上	◆2学期以降も、HPの更新を継続し、学校・学年等からの各種たよりを定期的に発行することで、授業や集会、学校行事、生徒会活動、部活動など、教育活動全般の様子を幅広く発信していく。また、各種たよりが生徒を通じて保護者の手に確実に渡るよう声掛けをしながら、更に家庭や地域との連携を図っていく。	地域2-3	22	21	1	0	98										

【学校運営協議会における意見・提案等】
 ◇3年生の職場体験学習では、一人一事業所での体験ができ、地域で生徒を支援していただいていると感じた。また、HPや各種便りを通して、学校生活や生徒の活躍をタイムリーに発信しているので、学校の様子がよく分かる。教育的ニーズに対応した教育については、ICT支援員や特別支援教育支援員などが配置され実践できていると感じる。今後もさらに一人一人に合ったきめ細かな対応をお願いしたい。
 ◆職場体験学習では、本当に地域に支援していただいているということを実感し感謝している。情報の発信については、積極的に継続実践していきたい。教育的ニーズの対応については、ICT教育を含め、多様な教育環境を整備していきたい。